

一、1報告
第7回 AAFCコンサート大成功

十月十二日(日)快晴に恵まれた午後、アピスタ(手賀沼公園)大ホールで第7回のコンサートを開催しました。

準備、設営、運搬など事前の準備が功を奏してスムーズに運営することが出来ました。

会場は用意した椅子70脚では足りなく、何回か追加し、プログラムも追加印刷するなど、予想を大幅に超える約130名程の聴衆で今までのアピスタの会場では最高の人数でした。

第1部は「クラシックコンサート」でチェロ、ピアノ、クラリネットによる演奏会でした。

楽器の紹介などを交えてお馴染みの小曲その他が演奏され聴衆を魅了しました。

第2部は「オーディオの昔と今」と題して高橋さんをお願いしてStereobondなどの歴史的な珍品を軸に歴史、エピソードなどを話していただきました。

いつも第2部になると急に聴衆が減るのですが、今回は殆どの方がそのまま残り聴いて下さいました。高橋さんのコレクションから蝉管式の円筒レコード、最初の5など貴重な珍品をコーナーで展示しました。針音の中から聞こえてくる素晴らしい名演に皆さんが熱心に聞き惚れておられました。音を初めて聴いたという若い方もおられました。

プログラムには高橋さん作成の「オーディオの変遷」を資料として添付し資料性の高い格調のあるものとなりました。ポスターは市やコンビニ、駅などの掲示板に、また新聞、ミニコミ紙などに広告を掲載して又活動も積極的に行いました。録音は従来よりお馴染みの石田さんの他石関さんにもお願いしました。使用する機器類も会員各位が持ち寄り、機器や照明操作等も会員が行いました。

今年も皆様のご協力とご援助により無事コンサートを終了することが出来た事を感謝し、厚く御礼申し上げます。

会長 佐藤 久男

二、私とオーディオ

オーディオファイル

ここ数年、オーディオファイルという言葉の度々目にするようになりました。以前から使われているオーディオマニアに較べ、いい言葉だと気に入っています。

ファイルの意味するところ、語源はギリシャ語だと思いますが「愛する」、「愛でる、慈しむ」の意があり、ただ熱狂的に好むの意のマニアと異なり、オーディオ愛好家にはより相応しいと思っています。

オーディオ・音楽との出会い

私が過ごした少年時代は昭和三〇年前後、山野、川辺で遊びに明け暮れた文字どおりの典型的な地方少年でした。ラジオ作りに興味を持ち、自分が作ったラジオから音が出る楽しさに鉱石ラジオ、並四、高一、五球スーパーと自作ラジオ作りにも熱中しました。

そんな中、兄のレコードプレーヤー(TEAC製「帝國齒科電気のロゴ有り」モーター使用の兄の自作品)を借りてレコードを聞き始めたのがオーディオ、音楽との接点でした。

この時、兄は私が音楽に興味を持ったのを喜んでくれたようで、シャルル・ミンシュ指揮・ボストン交響楽団の「カルメル組曲」と「アルルの女間奏曲」のレコードを買ってくれました。私の目的は、当時好きになつた今というアイドル歌手のレコードを聴くことでしたが・・・

オーディオ遍歴

初めて自分のシステムを持ったのは大学時代、アルバイトで貯めた資金でトリオ(現ケンウッド)のトライアンプ、パイオニアのレコードプレーヤーを何とか工面し、スピーカーはフォスター(現フォステクス)のフルレンジユニットを使った自作スピーカー(設計理論など意に介さず助だけで作ったもの)でした。主に聴いていたのは、ジャズ・ポピュラー・ヴォーカルや小編成のジャズコンボ、パロック音楽でしたが、偶然耳にしたグリーン・グールドの「平均率クラヴィア曲集」に心を奪われ、以来グールドを主に器楽曲(ピアノ、ヴァイオリン)、声楽、ブロードウェイミュージカル等ジャンルにこだわらずに聴くようになりました。

社会人になって揃えた機器は、アンプがラック、プレーヤーは兄の自作品を再度借用し、

トリオのチューナー、ティアックのオープンリールデッキを、スピーカーは、フォスターで再スタートしました。

その後、アンプ、FMチューナーはアキユフェーズに代替わり、プレーヤーは手持ちのSP盤も聴くためテクニクスのSL1000MK3を導入。スピーカーもスペンドールの他ダイヤトンの大型スピーカーを使ったこともありましたが、マンション住まいということで、スベスファクターの良いコンパクトタイプの中からピアノ曲、ヴォーカル再生のリアリティが気に入ったダイヤトンのDS 10000(クラヴィール)を現在まで長年愛用しています。

また、録音機が好きでソニー、ティアック、アカイのオープンリールデッキを持っていましたが現在はカセットデッキ、DAT、CDコーダーに変わりました。

いつもはCD再生が主ですが、一方で、今でもアナログレコードを聴く時間は、私にとって特別な一刻です。漆黒の盤(赤い盤もありますが)に触れ、針を下ろすと、そこは、一瞬にして自分好みの音楽世界。プレーヤーはステレオ用とモノラル用の二台を使い分けています。

昨年、DVD・HDDレコーダー(PCM、DSD録音が可能)を購入し、主にアナログソフトのアーカイブ用としてSP・LPやエアカエックソフトの高音質保存に重宝しています。

音楽の愉しみ・希わぬ夢

私のリスニングルーム(以下LR)は、書斎兼用の七畳半。引越前にはリビングルームに機器を置き家族に不便を強いた手前、現在の手狭な部屋をそれなりの再生環境になるよう部屋の整理(物の処分?)を始めたところですが、中々思うようにいかず思案、苦慮の毎日です。

私のオーディオの理想は、AV鑑賞に適した地下室でも広々とした防音LRでもありません(もちろん実現できるのであれば、有頂天ですが)。決して希えられないけれどイメージとしては、一目を瞑るとそこはアフリカあるいは南米の時折風そよぐ高原、木陰に椅子を持ち出し、大好きなアーティストが眼前で奏でる名演、名唱を聴き入る情景が目浮かぶ再生環境が私にとって理想のオーディオであり、夢です。

若い頃は、自分の好きな音楽をより良く聴きたい、少しでも質の良いシステムをと、なげなしの金をはたき無理をしてみました。

ここ数年、何とか自分の機器を鳴らしこみ、イメージするところに少しは近づいて来た感(聴覚の劣化?)もあり、これからは音楽、映像(音楽に限らず映画フリークでもあります)それに時折禁断症状が顕れる読書に時間を少しでも多くかけ、楽しむことが最高の贅沢と思うようになりました。

今年三月、AAFCに入会、楽しく例会に参加しています。いろんなジャンルの音楽、自作アンプ等の試聴等毎回が楽しみです。

例会では、何より音楽、オーディオを聴き、楽しむ会の空気が気に入っています。会員の皆さんの醸し出す雰囲気は、正にオーディオファイルに相応しいと感じ入っているところです。AAFCに参加したことで私もその一員に加われそうな気がしています。

今後ともよろしくお付き合いのほどお願いします。

後藤 榮一



スミソニアン博物館で入手のLPボックス「アメリカン・ミュージカルシアター」を手に